

BtoB 製品に関する購買側企業へのヒアリング結果

一般消費者ではなく、BtoB 取引の場合における消費者の立場にある購買部門が、定量型環境ラベルについてどのように理解、利用しているかということについて電話によるヒアリングを行った。

1. ヒアリング1

(1) ヒアリング先

印刷版（定量型環境ラベル取得製品）メーカーより取引先として紹介のあった、当該メーカーの定量型環境ラベル取得製品を購入した実績のある印刷企業（3社）

(2) ヒアリング結果

ヒアリングを行った3社の内、2社は定量型環境ラベルについて知っていたが、定量型環境ラベルを取得していることを購買の条件としていたのは1社であった。購買の条件としていた1社は、定量型環境ラベルの数値を自社の定量型環境ラベルの数値算定に使い、CFPの数値として公開するなど積極的な使い方をしていたが、他の2社は購買条件にも、他の用途にも定量型環境ラベルを使用していなかった。但し、いずれの企業も研修等により環境ラベルの情報収集や社内教育は実施しているとの回答であった。

質問事項	回答		
	印刷会社 (A)	印刷会社 (B)	印刷会社 (C)
1. 購入にあたっての重点ポイント	コスト、性能	使用している出力機との相性	環境情報、品質、価格
2. 購入にあたり環境情報を考慮するか	あまり考慮していない	しない	大いに考慮する (ラベル取得を確認し、他社から乗り換えた)
3. 定量型環境ラベルをしっているか	知らない	知っている	知っている
4. 定量型環境ラベルの必要性を感じるか	地球環境問題などから必要とは思いますが、現実にはどの程度のニーズがあるか不明	印刷版に限っては必要性は感じない(印刷物で環境負荷算定をする場合必要)	大いに必要性を感じる (安全性と情報公開を担保する観点から必要)
5. 購入にあたり定量型環境ラベル取得を考慮したか	考慮していない	考慮していない	考慮した

6. 定量型環境ラベル取得製品を優先的に購入するか	まず価格については揃えることを要求する	定量型環境ラベル取得を優先する訳ではないが、印刷版のクローズドリサイクルを実施しており、他社のものは使えない。	同じ価格ならラベルがついていることを優先する
7. 定量型環境ラベルの情報を購入条件以外に使うつもりはあるか	ない	自社の印刷物で環境負荷を算定する場合は、使用する可能性がある。	自社印刷物の環境負荷算定に使用し、顧客に情報公開する。
8. 社内外の研修、教育を通して環境ラベルの情報収集等を行っているか	情報収集は行っているが、具体的に顧客からの要求はない。	社内で、CFP やカーボンオフセットの説明会を実施した。(試行事業の時)	社内で定量型環境ラベルを含む環境ラベルの説明会を実施した。

2. ヒアリング2

(1) ヒアリング先

住宅用建築材（定量型環境ラベル取得製品）メーカーより取引先として紹介のあった、当該メーカーの定量型環境ラベル取得製品を購入した実績のある工務店（14社に依頼し、6社が回答）

(2) ヒアリング結果

回答が得られた6社のうち、5社が実際に定量型環境ラベル取得製品を購入していたが、購買にあたり定量型環境ラベル取得製品を条件としたと回答したところはなかった。購買にあたり当該製品を選んだ理由は、いずれも他社製品と比較して性能が良いことをあげていたが、それに加えて環境を重視しているので選択したと回答した企業もあった。

さらに、実際に定量型環境ラベル取得製品を購入している5社の内2社は、定量型環境ラベルについては認識していなかった。

企業	回答
工務店 (A)	約4年前から購入を始めており、その時はまだ定量型環境ラベルマークがついていなかった。 決め手になったのは、他社製品と比較して性能が良いから。 類似商品であっても基本的に環境を重視しているのでこちらの商品を選択した。
工務店 (B)	購入にあたって性能がいいから選択した。
工務店 (C)	購入にあたって決めてとなったのは、性能。 類似製品であっても価格と性能のバランスで選択する。 この製品に定量型環境ラベルがついていることは知らなかった。
工務店 (D)	購入にあたって決め手となったのは、安心と安全、実際にみて性能が良いから。 環境マークがあるなしではない。定量型環境ラベルについてはよく分かっていない。
工務店 (E)	購入にあたって決めてとなったのは、性能。 当初コストが高いため購買を断念したが、品質が良いので選択した。 CFPマークは全く知らないので、この建材を選択するに当たっては考慮していない。 CFP自体良くわからない。
工務店 (F)	他の材質の建材を使用している。(質問の該当製品は現在は使っていない)